

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年12月18日(2008.12.18)

【公表番号】特表2008-517900(P2008-517900A)

【公表日】平成20年5月29日(2008.5.29)

【年通号数】公開・登録公報2008-021

【出願番号】特願2007-537422(P2007-537422)

【国際特許分類】

A 6 1 K	39/085	(2006.01)
C 1 2 Q	1/68	(2006.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 K	31/7088	(2006.01)
A 6 1 K	48/00	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/04	(2006.01)
G 0 1 N	33/50	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	39/085	Z N A
C 1 2 Q	1/68	A
A 6 1 K	39/00	H
A 6 1 K	39/395	D
A 6 1 K	31/7088	
A 6 1 K	48/00	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 P	31/04	
G 0 1 N	33/50	Z
G 0 1 N	33/15	Z
C 1 2 N	15/00	A

【手続補正書】

【提出日】平成20年10月23日(2008.10.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

I s d A (S E Q I D N O : 3) ポリペプチド、I s d B (S E Q I D N O : 6) ポリペプチド及びI s d C (S E Q I D N O : 9) ポリペプチドからなる群から選ばれるポリペプチド、及び薬学的に許容可能な担体を含むワクチン。

【請求項2】

前記ワクチンが注射用調合物中にある、請求項1に記載のワクチン。

【請求項3】

アジュバントを更に含む、請求項1に記載のワクチン。

【請求項4】

I s d A (S E Q I D N O : 3) ポリペプチド、I s d B (S E Q I D N O : 6) ポリペプチド及び I s d C (S E Q I D N O : 9) ポリペプチドからなる群から選ばれるポリペプチドに結合する有効な抗菌量の抗体、及び薬学的に許容可能な担体を含む医薬組成物。

【請求項 5】

S E Q I D N O : 1、S E Q I D N O : 4、又は S E Q I D N O : 7 に対してアンチセンスな核酸、及び薬学的に許容可能な担体を含む医薬組成物。

【請求項 6】

S E Q I D N O : 1、S E Q I D N O : 4、又は S E Q I D N O : 7 の核酸を含む s i R N A 分子、及び薬学的に許容可能な担体を含む医薬組成物。

【請求項 7】

請求項 1 のワクチンの有効量を含む、対象においてスタフィロコッカス - アウレウスの感染により引き起こされる、若しくは寄与する疾患又は状態の治療剤若しくは予防剤。

【請求項 8】

請求項 4、5 又は 6 のいずれかに記載の医薬組成物の有効量を含む、対象においてスタフィロコッカス - アウレウスの感染により引き起こされる、若しくは寄与する疾患又は状態の治療剤若しくは予防剤。

【請求項 9】

(i) I s d ポリペプチドを適した相互作用性分子に、ある作用物質の存在下で、前記 I s d ポリペプチドと相互作用性分子との間の相互作用が、前記作用物質の非存在下では可能な条件下で接触させるステップと、

(i i) 前記 I s d ポリペプチドと相互作用性分子との間の相互作用のレベルを判定するステップであって、前記作用物質の存在下における前記 I s d ポリペプチドと相互作用性分子との間の相互作用のレベルが前記作用物質の非存在下に比較して異なることは、前記作用物質が該 I s d ポリペプチドと相互作用性分子との間の相互作用を阻害することの指標である、ステップと

を含む、I s d ポリペプチドに結合して鉄の取り込みを阻害する作用物質を同定する方法。

【請求項 10】

前記 I s d ポリペプチドがスタフィロコッカス - アウレウス I s d A、I s d B、及び I s d C から成る群より選択される、請求項 2 1 に記載の方法。

【請求項 11】

(i) ある作用物質の存在下又は非存在下で野生型スタフィロコッカス・アウレウス株を培養するステップと、

(i i) I s d ポリペプチドの発現を比較するステップであって、前記作用物質で処理された細胞における I s d ポリペプチドの発現減少がより大きいことは、前記作用物質が、スタフィロコッカス・アウレウスにおいて I s d ポリペプチドの発現を阻害することの指標である、ステップと

を含む、スタフィロコッカス・アウレウスにおいて I s d A、I s d B、及び I s d C ポリペプチド同定する方法。

【請求項 12】

(i) ある作用物質の存在下又は非存在下で野生型スタフィロコッカス・アウレウス株を培養するステップと、

(i i) i s d 核酸の発現を比較するステップであって、前記作用物質で処理された細胞における i s d 核酸の発現減少がより大きいことは、前記作用物質が、スタフィロコッカス・アウレウスにおいて i s d 核酸の発現を阻害することの指標である、ステップとを含む、スタフィロコッカス・アウレウスにおいて i s d A、i s d B 及び i s d C 核酸から成る群より選択される核酸の発現を阻害する作用物質を同定する方法。